

「学力向上を目指して」 一昨年度の取り組みと本年度の方針一

平成20年度の全国学力・学習状況調査の結果は、19年度と同様に、小学生はほぼ全国水準でしたが、残念ながら中学生は学力の定着状況に大きな課題があることが明らかになりました。

香美市教育委員会として、学力向上の4つの視点（①授業の充実・改善②チャレンジタイムの工夫③加力指導の充実④家庭学習の習慣化）を設定し、小中連携の推進と学校評価の活用を図りながら取り組みを進めました。授業の充実・改善については、各校が研究授業に積極的に取り組み、市教委として授業改善の方向性を統一して、授業の充実を図るようにしました。また、家庭学習の習慣化については、すべての学校で家庭学習の手引きを作成し、活用を始めています。その他、学校独自の取り組みも実施していますが、取り組みの成果が現れるまでには至っていません。

21年度は、次のとおり20年度の取り組みを継続し、一層の深化・徹底を図ります。

1. 平成20年度の取り組み

- (1) 全小中学校教職員へ（依頼）
4月の市教職員総会において、次の3点を要望しました。
 - ①1時間1時間の授業の充実（子どもたちが意欲を持って学習できる工夫を）
 - ②加力・補習の時間の確保（担任だけでなく、学校全体の協力体制を）
 - ③宿題・家庭学習の見直し（絶えず励ましと努力を認める評価を）
- (2) 香美市「学力向上連携協議会」の立ち上げ
全小中学校研究主任を中心として、学力調査結果の分析と研究を行い、学力向上対策を検討し、各校の取り組みの成果と課題を交換しました。
- (3) 全小中学校の共通取り組みとして
家庭学習の課題を克服するために、次の4点に取り組みました。
 - ①学校独自の家庭学習の手引き書を作成する。
 - ②共通目標を設定し、児童生徒に十分説明するとともに、定期的に点検し、肯定的な評価を入れ励まし続ける。
 - ③授業と家庭学習をつなぐ工夫・努力をする。
 - ④保護者・家庭への啓発と連携を図る。
- (4) 高知県教育委員会との連携・協力による「中学校学力向上推進チームの学校支援訪問」（鏡野中学校・数学科について）
 - ①学習改善プラン・授業参観等による協議を行い、支援の方法について話し合う。
 - ②改善に向けた取組・進捗状況を把握し、指導・助言等に学ぶ。
 - ③総括を行い、次年度の方向性を決定する。

用語解説

チャレンジタイム
各学校が独自の時間割で、算数や国語の基礎的な問題等に挑戦する時間。

中1ギャップ
本来は、中学1年になると、いじめ・不登校・暴力行為・学力不振等の問題が増加する現象を指すが、ここでは小学校と中学校の学習内容・学習方法や学習形態等の違いが中1段階で明確に出ていること。

加力
授業だけでは十分に学習できなかった子どもたちに、放課後等を活用し、力をつけていくこと。

キャリア教育
一人ひとりが将来自分の人生を主体的に歩めるようにするための力を育成する教育。

これらの取り組みにより、自主的意欲的に家庭学習をするようになった児童生徒の姿や、学校の取り組みに積極的に協力してくれるようになった母親の報告を受け、大変うれしく、より一層取り組みを工夫して、家庭との連携を深めたい。

鏡野中教職員が自主的・主体的に、この事業に取り組むことを決め、少しずつではあるが着実に歩みを続けている。

2. 平成21年度の方針（計画）

- (1) 授業研究の充実・発展のために
鳥取大学の矢部敏昭教授（算数・数学）と広島大学大学院の吉田裕久教授（国語）に、年間を通して授業の指導を受け、授業の改善・充実を図ります。
- (2) 市教育研究会における実践を通して
中1ギャップの解消のために、昨年度から全教科・全領域で共通テーマとして取り組んでいます。本年は具体的実践による交流を深めたいと考えます。
○中1ガイダンスの充実を図る ○小中教職員の共通理解・授業交流に努める
○互いの良さを認め合う学級づくりに努める ○キャリア教育の充実を図る
(目的意識を育てる)
- (3) 香美市「教育の日」の充実
(毎月20日の10時～15時)
保護者・地域の方が、市内のどこの小中学校でも自由に授業や生活の様子を見学でき、意見や思いを伝えることができます。ぜひ、学校へ来てください。
- (4) 豊かな心の育成
 - ①道徳教育の推進
 - ②読書活動の充実
 - ③豊かな体験活動の実施
 - ④地域の方々とのふれあい活動の充実



(5) 体力・運動能力の向上

昨年度の体力・運動能力等についての全国調査の結果は、高知県にとって大変厳しいものでした。香美市の小中学生も同様であり、今後、次のような取り組みに努めます。

- ①体育の時間の充実・工夫を図り、運動の楽しさを体得させる。
- ②日常の遊び（外遊び）の大切さを考えさせる。（いっしょに遊ぶことも必要）
- ③家庭への啓発を図る。
- ④社会体育との連携を深める。



(6) 基本的生活習慣の確立

- ①早寝・早起き・朝ごはんのすすめ
- ②食育の推進
- ③テレビ・テレビゲーム・携帯電話等について考える（ノーテレビデー等）
- ④手伝い・運動・読書等について考える（朝読書・読み聞かせ等）

以上のような取り組みを通して、児童生徒が主体的に考えて判断・行動し、教職員はもちろん保護者・地域の方々にも理解・協力していただきながら、学力や体力等すべての土台となる基本的生活習慣の確立と豊かな心の育成を図り、本当の「学力」「体力」「生きる力」の育成を目指したいと考えています。

この4月に全小中学校を突然訪問し、児童生徒の学習の様子や教員の授業の工夫等を見せてもらったところ、教員は授業の中で一人ひとりの考えを大切に、子どもたちは落ち着いて学習に取り組んでおり、自分の考えをしっかりとノートにまとめたり、友達に自分の意見を伝えようと努力している姿を見ることができました。また、特別な支援を必要とする子どもにしっかりと寄り添いながら、適切な支援を行っている様子や、学校全体が目標に向かって取り組む体制をつくりあげてくれているのを見て、大変心強く感じました。今年こそはきっと目に見える成果が期待できると思ひ、一層力を尽くして取り組んでいこうと考えています。

香美市教育委員会